

3年言語と文学 (MYP 4 Language and literature) 【国語：3単位】

科目のねらい

- MYP言語と文学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。
- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
 - ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
 - ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
 - ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
 - ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
 - ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
 - ・生涯にわたる読書への関心を育む。
 - ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を分析する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。
B：構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C：創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D：言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標・評価基準の記述は、IBO発行の「MYP Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. アイデンティティ 2. アイデンティティと関係性 3. 批判的思考スキル	<p>評論</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)イ・ウ(2)ア 思考力・判断力・表現力等 A第3学年 イ・ウ C第3学年 ア・イ・ウ・エ</p> <p>鷲田清一「誰かの代わりに」(教科書) 鷲田清一「大事なものは見えにくい」</p>	<p>提言</p> <p>「選択した評論文の章段と関連させ、「自分」について考察する」</p> <p>【A】鷲田の文章に表れる自分についての考えを読み解き、根拠として効果的に用いて自分の考えを論じる。 【C】関連する独創的な具体を根拠として用いてアイデアを発展させる。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いる。また、場面にふさわしく受け手を考慮した言葉遣いを使用する。さらに、言語以外のコミュニケーション手段を効果的に用いる。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. A-3</p>
	2	1. ものの見方 2. 空間的・時間的位置づけ 3. コミュニケーションスキル	<p>言語と価値観</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)イ・エ(2)ア・イ(3)イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ</p>	<p>記述試験</p> <p>古典語彙を挙げ、言葉の変遷における日本人の価値観を論じるエッセイ</p> <p>【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】様々な関連する独創的な具体を根拠として用いて文章を組み立てる。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. C-17</p>
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーションスキル	<p>随筆</p> <p>知識及び技能 第3学年(3)ア・イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ C第3学年 ア・イ・ウ・エ</p> <p>「新明解古典シリーズ『枕草子』」 「新明解古典シリーズ『徒然草』」</p>	<p>記述試験</p> <p>『徒然草』に表れた筆者と時代の価値観について論じるエッセイ</p> <p>【A】『徒然草』『枕草子』に表れる価値観の類似点や相違点を適切に評価し、自分の考えと関連させて論じる。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】様々な関連する具体を根拠として用いて文章を組み立てる。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-B ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. C-17</p>
	4	1. アイデンティティ 2. アイデンティティと関係性 3. 転移スキル	<p>文学批評～葛藤～</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)ア・イ・ウ 思考・判断・表現 B第3学年イ・ウ・エ・オ C第3学年ア・イ・ウ・エ</p> <p>魯迅「故郷」(教科書) ※以下から選択 森鷗外「舞姫」 芥川龍之介「羅生門」 有島武郎「生れ出づる悩み」</p>	<p>記述試験</p> <p>文学作品において葛藤がどのように描かれるか論じるエッセイ</p> <p>【A】「羅生門」「舞姫」「生まれ出づる悩み」に表れる葛藤を作品内外のコンテキストやメタファーと関連させて読み解く。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A</p> <p>2. D-22</p>

※【知識及び技能】(1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。